

# 情報通知

## 研究課題名：

亜急性期テント下脳梗塞症例における自覚的めまい改善度と前庭-小脳神経ネットワークの損傷度、  
バランス機能改善の関連性に関する予備的検討-構造画像による損傷ネットワーク解析を用いた  
後向きコホート研究-

## 研究実施者：

平野 晋吾 <sup>1,2)</sup>(研究実施者・理学療法士)、五十嵐 達也 <sup>3)</sup>(理学療法士、助教授)、光武翼 <sup>4)</sup>(研究責任者・理学療法士、准教授)、  
坂本麻衣子 <sup>2)</sup>(臨床心理士、教授)、川口淳 <sup>2)</sup>(教授)、中藺寿人 <sup>5)</sup>(作業療法士、准教授)、谷口隆憲 <sup>5)</sup>(理学療法士、講師)  
猪岡 弘行 <sup>1)</sup>(理学療法士・科長)

- 1) 埼玉よりい病院 リハビリテーション科
- 2) 佐賀大学大学院 医学系研究科
- 3) 文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科
- 4) 佐賀大学医学部 臨床研究センター
- 5) 福岡国際医療福祉大学

## 研究の目的：

めまいは脳卒中者の約 10%で生じ、転倒リスクや日常生活能力、リハビリテーションの進行度に影響を与えることがわかっています。そのため、この症状に対して適切に評価し、機能改善に向けたリハビリテーションを実施することは、対象者の身体機能・生活の質(OQL)の維持・向上において重要です。多くの方は発症後数日から数週間で改善しますが、中にはこのめまい症状が慢性化することがわかっています。しかし、この慢性化のメカニズムが明らかとなっておりません。これらを明らかとすることは、患者様のめまい症状の回復のメカニズムを発見するに有益な知見となるだけでなく、脳卒中後のめまい症状に対するリハビリテーション戦略の意思決定やめまい症状に対する予後予測の一助となる重要な知見となると考えられます。本研究の目的は、脳卒中後のめまい症状の改善に関わる脳の損傷部位を明らかとすることです。

## 研究の対象：

本研究は単施設で実施され、共同研究施設はありません。研究期間は 2025 年 9 月～2026 年 9 月です。2023 年 7 月～2025 年 8 月の間に埼玉よりい病院のリハビリテーション病棟へ脳血管疾患にて入院し、リハビリテーションを実施した患者様とします。当院の診療録データベースの情報を見返して、情

報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

#### **収集する情報：**

① 脳画像データ②性別③疾患名④疾患部位⑤発症日⑥自身で感じるめまいの強さ⑦バランス機能検査の結果⑧認知機能検査の結果となります。

#### **情報の保管および破棄、情報公開の方法：**

本研究は、埼玉よりい病院の倫理審査委員会の承認を得て実施しています(承認番号: Y250828-1, 承認日:2025 年 8 月 28 日)。データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果は Excel への出力および ID 番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし、HDD は施錠可能な室内にて保管します。研究終了後(令和 7 年度 3 月)のデータの取り扱いは、デジタルデータがいかなるソフトウェアでも復元できないよう PC 上で完全に削除します。また、脳画像を含めた収集データは院内のみで使用され、外部への提供はいたしません。また、病院外への持ち出しを禁止します。研究結果は、学会発表および学術論文等で公表する予定です。公表の際は、個人が特定されないように統計的に処理し、匿名化（または仮名化）した形で提示します。

#### **見込まれる医学上の貢献：**

脳卒中後のめまい症状に対するリハビリテーション戦略の意思決定やめまい症状に対する予後予測の一助となる重要な知見となると考えられます。

#### **研究に関する問い合わせ先：**

本研究への参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

参加を拒否された場合でも、診療内容や今後の治療・看護等に不利益が生じることはありません。

住所：埼玉県大里郡寄居町大字用土 395 番地

電話番号：048-579-2788(内線 532)

担当者：埼玉よりい病院 リハビリテーション科 理学療法士 平野 晋吾